

平成24年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

長尾 研究室	氏 名	小林 尚 弥
卒業研究題目	発表中のプレゼンテーションスライドに対する効果的なフィードバック手法に関する研究	

新たなアイデアや知識を議論から獲得するためには、ゼミにおいて発表者は参加者へ自身のメッセージを明確に伝えることを期待される。学生は研究室に所属し実際にゼミでプレゼンテーションを行い、その際に発表に対する指摘を、参加者から受けることでプレゼンテーション能力を向上させていくと考えられる。しかし発表に対する指摘は一般に口頭で行われ、記録に残りにくい。そのことにより、どのような指摘をされたか忘れ、また同じ指摘を繰り返し受けることや、本来行うべき発表内容に関する議論を妨げることに繋がる可能性がある。これらの問題を解決するには、参加者が効率的にスライドへの指摘を入力できるようにするとともに、発表者へ、その内容を的確にフィードバックする必要があると考えられる。本研究ではスライド作成技術の向上の役に立つフィードバックを、プレゼンテーションの参加者から効率的に得るための手法を提案し、それに基づくシステムの作成と運用、および提案手法の検証を行った。

ゼミ中にスライドへのフィードバックを効率良く獲得するには発表の理解や議論の妨げにならないようにフィードバックの記録を行う必要がある。そこで、本研究では次の二つの仕組みを採用入れたインタフェースの開発を行った。一つはよくある指摘を定型文の選択によって入力することができる仕組みであり、もう一つはスライド内の要素(図・文章など)を容易に選択し、指摘と関連付けられる仕組みである。作成したインタフェースを図1に示す。このインタフェースは画面の左に表示されているスライド内の要素を選択することにより、任意のスライド内の要素を選択することができる。さらにスライド内の要素には属性(テキスト、画像など)が付加されている。要素を選択すると、同時に画面の右にある定型文の指摘の候補が、選択した要素の属性に応じたものに切り替わる。これにより、少ない手順でスライドへのフィードバックの入力を行うことができる。

記録されたフィードバック情報を適切に利用するために、Webブラウザで閲覧可能なページを自動生成する仕組みを実現した。図2は発表に対する、参加者からの指摘のフィードバック情報を閲覧できるページの例である。このページでは、スライド内のどの要素に対してどのような指摘が行われたのか、また各スライドに対し、いくつの指摘が行われたかなどのスライドへのフィードバック情報を閲覧することができる。他にも、同じ指摘がなされているスライドの検索を行うこともでき、これによりどのような場合にその指摘がなされるのかの具体的な事例を知ることができる。

本研究で提案したシステムを用いて発表練習を行い、スライドのハンドアウトを印刷した紙を用いてフィードバックを受ける場合との、比較実験を行った。その結果、提案システムを用いる方が、より短い時間でスライドを修正することができ、かつスライドの質があまり高くない状況においては、修正後のスライドの質がより良くなる傾向があることが分かった。

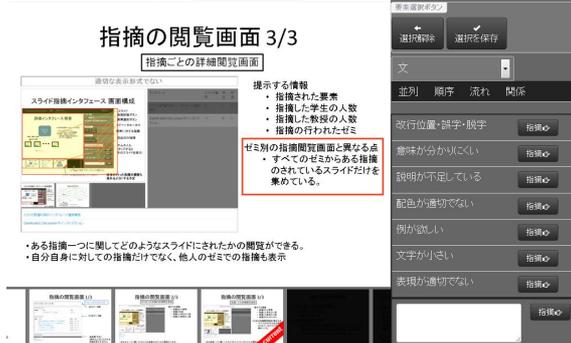


図1: フィードバック情報入力画面

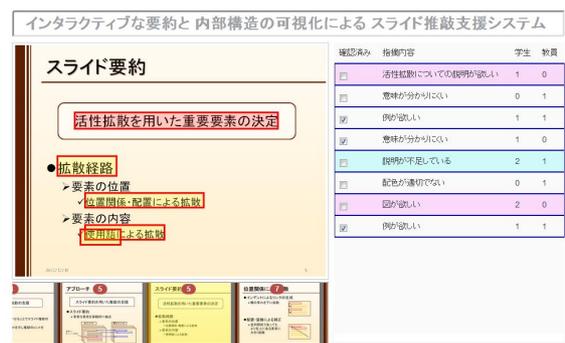


図2: フィードバック情報閲覧ページ